

ごとう通信

第 88 号

平成 20 年 4 月 1 日

一気に桜が咲きましたね。診療室のある小滝橋は桜の隠れた名所です。満開になったときは本当に壮観です。と言っても僕は「花より団子」派です。

さて、先日、あるパーティーに参加してきました。大病院に勤務していた時、出向で北里大学に三年以上出向していた時期があるのですが、そちらの科長が退

官されるといふことで百人近く集まりました。僕が出向してから十年以上経つのですが、あちらこちらで「変わら



ないねえ」「いや、そっちこそ変わらないよ」といった声があがっていました。確かに僕も学生時代と体重が同じなのでそんな声をたくさん頂きました。

パーティーの帰りの電車ですごく昔のことを思い出しました。まだ広島にいた少年時代、母親が昔の友人と再会し、「学生時代と変わらないねえ」と言い合うのを見て、普通に「どう考えても変わってるだろう!」と思ったものです。今になってみるといろいろ分かります。きっと「昔と同じ空気」を感じることで、多少のしわや体型の変化は気にならないものです。僕もそろそろ昔を懐かしめる年代になったということですね。

ちなみに僕はそこそこテレビや新聞などに出ているので、それを見てくれた仲間が何人かいたのですが、

「テレビで見るより若いねえ」と言われました。結構複雑な気分です。

ロボット患者

先日、あるニュースを見ていたら僕たちの母校でロボット患者を作ったとのこと。何かというと、実際に治療のシュミレーションをするとそのロボットが痛い表情をしたり、足に力が入ったりするというものです。これがまた良くできていて、パッと見では本当の患者さんと思うほどです。歯科学生の研修用に作られたものようですが、ロボット工学の水準の高さには驚かされます。ただ、皆さんの中には「こんなもの必要なの?」と思われる方もいるでしょう。もちろん僕も同じ意見ですが、やむ